

かがやく瞳

南川小 学校だより

R3.12.24

「明日をつくる 10歳のきみへ」

医師の日野原重明さんは、4年前に105歳で亡くなりました。この本は、その日野原さんが103歳の時に書いた本です。

この本の中で、日野原さんは、ドイツの心理学者エーリッヒ・フロムの言葉を紹介しながら、人には「持つ人生」と「なる人生」があると語っています。

「持つ人生」と「なる人生」みなさんは、どう考えますか？

「持つ人生」とは、欲しいものを手に入れて満足する生き方です。「あのゲームがほしいな」と思えば、クリスマスプレゼントで買ってもらい、「あの自転車かっこいいな」と思えば、お父さんお母さんにねだって誕生日に買ってもらう。そうやって、ほしいものを手に入れ続けることがよい人生だと思いませんか。

「なる人生」は、「もの」ではなく「自分か何になるか」が人生の目標です。「サッカーでレギュラーになりたい」と思ったら、一生懸命に練習してそれをかなえる。「かけっこで一番になる」と決めたら、そのために練習して速く走れるようになる。そのように自分をみがいてなりたいたいものになる生き方です。

みなさんは、「持つ人生」と「なる人生」のどちらがいいと思いますか。

実は、「持つ人生」には、限りがありません。新しいゲームがどんどん欲しくなるし、よりかっこいい自転車、高校生になればバイクが欲しくなることでしょう。そのような物は、うらやましがる人はいても「えらいね」「りっぱだね」と褒めてくれる人はいません。お金で買える物は、持っていてても尊敬はされません。

それに対して「なる人生」は、尊敬を集めます。そうなるためにその人が努力したことを知っているからです。「なりたいたい自分」を決めてそれに向かって努力し、時には挫折し、その挫折から学び、また努力する。得られた結果より、そうした過程そのものに人生の価値があると教えています。

みなさんは、今6歳から12歳。人生まだまだ長いですね。小学校、中学校、そして高校や大学で学ぶ人もたくさんいることでしょう。学校は、なりたいたい自分になるための勉強をしています。自分の能力をしっかり伸ばし、「なりたいたい自分」になる力を身に付け幸せな人生を歩んでほしいと思います。明日から冬休みです。あと数日で、新しい年2022年（令和4年）を迎えます。新年を迎えるにあたり、ぜひ「なりたいたい自分」について考えてみてください。（2学期終業式の話より）

84日間の2学期が終了

保護者の皆様、地域の皆様、2学期には大きな出来事もあり、ご心配をお掛けしましたが、子どもたちへの声掛けや温かな見守り、心より感謝いたします。ありがとうございました。おかげさまで、学校には子どもたちの笑顔があふれています。

ふれあいフェスタの後の「のど自慢ダンスコンテスト」「ふれあい班大縄集会」「全校ケイドロ」など、委員会のメンバーが中心となって、楽しい企画をたくさん考えました。縦割り班での「思いやり」が随所に見られました。子どもたちの笑顔は、我々の心を癒やしエネルギーを与えてくれます。リーダーとなった上学年の子どもたち、それに応える下学年の子どもたちに感謝です。

もうすぐ、冬休みです。今年一年の成長を振り返り、ご家庭でも大いに褒めてあげてください。そして来年も子どもたちが、安心安全で健康に過ごせるよう、ご支援をお願いします。

みなさん、良い年をお迎えください。



1月の主な予定

- 1月 7日(金) 始業式 3限後下校 11:30 SB11:35
学校預り金口座振替日
- 9日(日) さいの神(頸城区青少年育成会議主催) 12:00点火予定
- 11日(火) 生活コントロールチャレンジ週間・スタートアップ週間(～14日)
発育測定(下学年) 栄養教諭来校日
- 12日(水) 発育測定(上学年)
- 14日(金) 課外体験活動①
- 17日(月) ALT訪問 委員会活動
- 18日(火) 校内書き初め展(～22日)
- 21日(金) 学習参観 学年懇談会 5限後下校 14:40 SB14:45
- 24日(月) 給食週間(～28日)
- 28日(金) 課外体験活動②
- 31日(月) ALT訪問



広がるボランティアの輪

先般、パンジーとビオラの苗で児童玄関前を飾ろうと、ボランティアを募集しました。多くの児童が参加し、張り切ってプランターに苗を植えてくれました。使った移植ごとの片付けや落ちた土の掃き掃除など、最後まで仕事をしてくれた姿に感激です。おかげで児童玄関前が明るくなりました。



また、清掃ボランティアを募ることがあります。週2回の清掃では、どうしてもほこりなどがたまってしまうからです。休み時間にモップやほうき、ちりとりを手に校舎内を清掃する児童のおかげで、日々、きれいな環境で過ごすことができます。

自分の意志で、進んで取り組もうという気持ちの輪が広がりつつあり、うれしく思います。

人権週間から ～法務省 12月4日～10日 「誰か」のことじゃない～

「人権」とは、人が生まれた時から持っている「自分らしく生きる」権利のことです。よく知られている「みんなちがって、みんないい(金子みすゞ)」の言葉に象徴されるように、一人一人の個性が認められる社会の実現が望まれます。「子どもの権利条約」は、子どもたち自身、あるいは親の人種や性別、障害の有無やその他の社会的地位にかかわらず、すべての子どもが同等の権利を持っていることを定めています。

「差別や偏見はいけない」と言葉では理解していても、実際の言葉遣いや行動場面では深く考えることなく、相手を傷付けることが学校生活では起こります。その都度、自分自身を振り返らせることで行動を改めるよう働き掛けています。加えて、重要なことは子どもに関わる全ての大人の人権感覚、人権意識であると考えます。心の奥に潜む無意識の差別や偏見に目を向け、自らを律することが、子どもと向き合う大人として必要不可欠な構えです。子どもを育む大人として、日々肝に銘じたいものです。



上越市立南川小学校
南川小学校 学校運営協議会

〒942-0145 新潟県上越市頸城区上吉414番地

TEL 025(530)2027 FAX 025(530)3921

南川小学校のホームページでは、学校での活動の様子を随時発信しています。そちらもご覧ください。